

琵琶湖で釣りをを行う人の環境意識について

植村 龍二 (生涯スポーツコース 野外スポーツコース)
指導教員 中野 友博

キーワード：琵琶湖，釣り，環境意識

1. 序論

釣りは幅広い年代の人が楽しめるスポーツである。レジャー白書 2017 によると釣りの愛好家は 690 万人いるとされている。中でも、手軽に行うことのできるルアーフィッシングが近年では人気を集めている。ルアーフィッシングの代表的なターゲットはブラックバスといえる。ブラックバスの世界記録は琵琶湖で釣り上げられている。琵琶湖は、滋賀県の中央部に位置する湖で、日本最大の湖である。

琵琶湖を訪れる観光客が消費するレジャー費は地元自治体に貴重な収入をもたらす一方、環境に対しては負荷を高めてきた為、2002 年に琵琶湖ルールが制定された。2013 年の延観光入込客数は、4,522 万 6,900 人であった。県をはじめ湖岸周辺の市町村は、ゴミの放置，迷惑駐車，プレジャーボートの騒音などの対策に追われてきた。

そこで本研究では特にゴミ問題に着目し、釣り場のゴミ問題に対して、釣り人はどのような考えを持っているのかまた、釣り歴や頻度は釣り人の環境意識に、どのように関係しているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

琵琶湖で釣りをを行う 81 人を対象にアンケート調査を行った。調査対象の釣りの方法別内訳はおかっぱり 26 人，レンタル 26 人，オーナー 24 人，ガイド 5 人である。アンケート内容は、釣り人の属性を知るために、性別，年齢，居住地，釣りを始めてからの期間，釣りをしている頻度である。環境意識については琵琶湖環境部循環社会推進課が実施したアンケートを参考に筆者が独自に作成した。質問項目を 6 項目と自然環境保護目的の利用料についての質問の計 7 項目である。

3. 結果と考察

1) 琵琶湖の環境保全について

琵琶湖の環境を保全するために大切なことにつ

いて回答を求めた結果、レジャー利用者への啓発、清掃活動が共に 31 人 (38%) であった。中俣らの研究では監視カメラの有無がゴミのポイ捨てに最も関係していると示されていたが、本研究では監視カメラの設置が琵琶湖の環境保全の為に、重要であると回答した人はいなかった。琵琶湖が広大であり、湖岸全てに監視カメラを設置することは、現実的ではないからであろう。

表 1 琵琶湖の環境保全に重要なことについて

| レジャー利用者への啓発 | 清掃活動 | 琵琶湖ルールの徹底 | 監視カメラなどの設置 | 計 |
|-------------|------|-----------|------------|-----|
| 31人 | 31人 | 19人 | 0人 | 81人 |

2) 釣りの頻度別にみた環境意識について

週 1 回程度から年 1 回までは大きな差はないが、ほぼ毎日釣りをを行っている人は釣り場の環境が気になっていることが分かった。このことから、釣りの頻度は環境意識と関係していると考えられる。

表 2 釣りの頻度別にみた環境意識

| 頻度 | 全体 | ほぼ毎日 | 週1回程度 | 月1回程度 | 年6回程度 | 年1回程度 |
|-------|-----|------|-------|-------|-------|-------|
| 平均(点) | 2.1 | 1.5 | 2.0 | 2.6 | 2.0 | 2.3 |
| SD | 0.9 | 0.5 | 0.7 | 1.2 | 0 | 1.9 |
| N(人) | 81 | 8 | 46 | 15 | 9 | 3 |

4. まとめ

釣りの頻度や釣り歴別に環境意識を比較した結果、釣り歴では環境意識の差はあまり見られなかった。釣りの頻度では特に毎日釣りをを行っている人の環境意識は、高い値を示すことが分かった。毎日釣りを行っていた人 8 人のうち、ガイドが 5 人であった。仕事として釣りを行っているガイドは環境意識に対し高い値を示すことが分かった。

引用・参考文献

- 1) 有井 勇人(2014)白山登山者の自然環境への意識について—ゴミ対策に着目して—, びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究, pp20
- 2) 中俣 友子・阿部恒之(2016)ゴミのポイ捨てに対する監視カメラ・先行ゴミ・景観・看板の効果, 心理学研究, 87-3pp219-228